

平成 28 年度 事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

I 全体事業概要

平成 28 年度は、前半は春先の長雨続きにより春作業の遅れが心配されたものの、台風襲来が全くないという異常現象が続いた。反面、秋に入ると連続した台風発生により秋雨前線が停滞し、前年に引き続き低温多雨・日照不足被害等が発生し、秋作業の遅れや農作物の収穫量に影響を与えた年であった。

農地利用集積事業については、中間管理事業業務受託事業において初の中間管理権設定実績をあげ、新たな借受希望者募集応募者リストへの登録農家の拡大に努めることができた。農地利用集積円滑化事業では、離農転出者や相続人不在者の依頼を受け、所有者代理売買業務を実施した。また、利用権設定は、小規模農家の離農傾向が加速し貸付契約が増加するなか、担い手農家の将来展望から新規及び更新契約で短期型利用権設定の増加傾向が顕著である。

農作業受委託事業は利用権設定の増加に伴い減少傾向にあるが、農業機械更新に課題のある小規模農家や、農地保全義務を尊ぶ農家からの受託業務を担っている。

担い手育成研修事業は、4 期生 2 名がイチゴ農家及びトマト農家で実践研修を修了、認定新規就農者として新都市担い手確保育成総合支援計画に基づく研修を修了した。新たな担い手育成支援においては、新農業人フェアへの参加や就農林相談会及び現地説明会等を開催、前年度登録者から継続協議中の 3 名が平成 29 年度研修生として決定した。

4 年目を迎えた農業塾は、9 名の塾生が 8 月末に 1 年間の課程を修了し、産直出荷農家としての生産販売技術を習得した。また、9 月から新たに第 5 期生 10 名を受入れ研修を実施している。

種苗等生産事業では、愛知県園芸振興基金協会の委託業務である『原種むかご』栽培において、移転 2 年目の栽培網室の予期せぬ構造不備から、収穫間際の成果品害虫被害が発生し、納品予定数量を大幅に下回る結果となり、関係機関や県下主産地に大変な迷惑をお掛けすることとなった。菌床椎茸ブロック供給では、オガコ調達コストが上昇したことから、群馬県産から岐阜県産に仕入れ先を変更、公社臨床栽培結果に問題がないことから、栽培農家 16 戸に対し 156,126 菌床を受注し、培養施設をフル活用して栽培農家に供給した。燃料費や水道光熱費の変動が少なく、製造量増大に伴う製造コスト削減効果もあり、当年度供給分から 1 菌床卸単価を 10 円値下げし 270 円とした。

収益事業では、自然薯栽培は気象条件の影響で品質等が心配されたが、概ね良品揃いの収穫となり、特産品需要の供給に貢献できた。菌床シイタケについても、夏菌床栽培及び冬菌床栽培ともに安定した収量を確保、前年比において増収増益となった。

全体事業における正味財産増減額は、公益事業では農地利用集積円滑化事業の伸張に影響し農作業受委託が減少し、種苗等生産供給事業での自然薯一本種芋やむかご栽培委託費の減額や菌床ブロックの値下げの結果▲2,360,017 円の減益、収益事業では農林産物生産事業における増収効果もあり 2,135,761 円の増益となった。法人会計を含めた全体経常増減額は▲1,055,481 円となり、当初予算に準じた決算額を達成した。当期の一般正味財産期末残高は 180,441,259 円、指定正味財産期末残高は 102,086,598 円、合計正味財産期末残高は 282,527,857 円を経常、前年度決算比では▲560,978 円の減額となった。

II 事業内容

1. 農地利用集積円滑化事業

- (1) 新規申請農地及び契約期間満了に伴う非継続農地について、利用集積を配慮した担い手への利用権設定を行った。
- (2) 大規模農家の合意解約に伴い、新たなゾーニングを配慮した利用権設定を行った。

単位：m²

内 訳	地目	28年度保有面積	27年度保有面積
賃貸借	田	1,882,907	1,870,299
	畑	61,354	68,883
	その他	13,686	13,686
	小計	1,957,947	1,952,868
使用貸借	田	627,228	578,861
	畑	25,168	33,052
	その他	0	0
	小計	652,396	611,913
合 計		2,610,343	2,564,781

- (3) 農地所有者代理事業により売却希望相談に随時対応し、売買代理契約を行った。

単位：m²

種別	買入		売渡		未処分	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
田	7	10,853	7	10,853	0	0
畑	1	2,638	1	2,638	0	0
その他	0		0	0	0	0
農地合計	8	13,491	8	13,491	0	0

- ① 作手黒瀬 水田（1筆）5,643 m² 畑（1筆）2,638 m²
2,400,000 円(289 千円/10a)
- ② 作手高里 水田（1筆） 2,115 m² 作手鴨ヶ谷 水田（1筆） 882 m²
1,700,000 円(567 千円/10a)
- ③ 作手白鳥 水田（4筆） 2,213 m²
無償贈与

2. 農地中間管理機構業務受託事業

- (1) 新規就農認定者(イチゴ)の施設用地、ハウレンソウ農家の規模拡大施設用地として、管内で初の中間管理権を 69a 設定した。
- (2) 平成 28 年度借受希望者募集応募者リストに、管内農家 42 名 140 h a を掲載し中間管理機構ホームページに情報開示した。
- (3) 人・農地プラン更新を機会として、中間管理機構制度を活用した土地改良事業や、集落協定による大型担い手農家の管理受委託による農地保全取組活動等、先進モデルを目指した検討会を企画した。

3. 地域農業者の支援に関する事業

(1) 農作業受委託事業

農作業の出来ない農家の作業を受託し、受託営農部会や公社自らが農作業を実施し、春作業から秋の刈り取り作業、WCS 稲の刈り取りやロール運搬、冬の堆肥散布など多様な農作業を行った。

作業受託内容	H28 年度実績	H27 年度実績	公社	委託
耕起	3.4ha	2.8ha	○	○
代掻き	2.1ha	2.8ha	○	○
田植え	7.3ha	6.8ha	○	○
育苗	1,543 枚	1,784 枚		○
畝立て	0.5ha	0.6ha	○	
刈り取り	13.0ha	15.2ha	○	○
採種刈り取り	18.6ha	19.8ha	○	○
乾燥調整	1,788 俵	1,751 俵		○
堆肥散布	10.1ha	19.0ha	○	
コントラ作業	27.5ha	34.0ha	○	○

(2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

- ① 青年就農研修制度に基づく 4 期生 2 名について、公社研修やイチゴ栽培農家とトマト栽培農家での専門技術を会得して研修を修了した。就農開始場所及び施設確保に伴う助成制度の獲得に困難を極めたが、両者ともに栽培用施設投資のめどが立ち新規認定就農者として独立した。
- ② 『新農業人フェア』東京会場 4 回、大阪会場 1 回、名古屋会場 1 回に参加、面談者合計 132 名に就農チャレンジをアピールした。愛知県立農業大学校へのカルチャースクールにも参加し、今後の地元相談会や説明会への誘導を図った。
- ③ 就農林相談会や現地説明会等を通じ、2 年越しで就農準備型給付金を対象とした 3 名を選抜、平成 29 年度から公社研修第 5 期生として受入れを決定した。
- ④ 農業塾第 3 期生 9 名について、新たな栽培品目にチャレンジし、出荷販売額を飛躍的にアップさせ、産直出荷農家としての感動と栽培技術を会得して 9 月末に全員が卒業した。引き続き第 4 期生 10 名を受入れ、平成 29 年 9 月末まで露地野菜を中心に栽培技術実習を受講中。

4. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

(3) むかご原種受託栽培

収用移転 2 年目の作付栽培であったが、網室の構造上の瑕疵により収穫間際のむかごが害虫侵入被害に遭遇し、成果物収量実績は 93.7 ㌦（前年比 79.5%）の減収、被害粒を除く規格サイズ量は納品予定数量の 30%相当の激減となった。

愛知県園芸振興基金協会と県下主産地協議会との協議の結果、規格外品の有償取引は叶わず、委託手数料 1,900,000 円 of 最終清算金 600,000 円の支払い減額とした。なお、予約数量の不足分は前年度の繰越在庫品と、県下主産地の増殖圃でのむかご種を代替品に充当した。

(4) 自然薯一本芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、予約数量 3,850 本に対し 4,500 本の目標数を想定し作付け栽培した。気象状況の問題もあり播種時期が遅れ、生育後の害虫被害や管理不足も影響し、規格サイズ品として予約数量の 70% (2,540 本)、不足数量は規格外サイズを無償配布した。

(5) しいたけ菌床ブロック受注栽培

28 年度は菌床原料の主材料である木材チップ値上げ等に伴い、原材料仕入れ先を群馬県産から岐阜県産に変更した。チップ形状の違いから製品への影響が心配されたが、公社での臨床栽培結果では従来品と同等の栽培管理で発生量に変化はなく、平成 29 年度生産用種苗として 159,000 菌床を受注生産した。

種菌メーカーの指導に基づき栽培マニュアルを一部変更したところ、夏菌床仕込時に雑菌混入と思われる大量の青カビが発生、一般農家用への配付を中止し、公社栽培用の夏菌ストック分を代替品として納品した。青かび発生菌床は在庫分として経過観察のところ、廃棄することなく公社冬夏菌栽培用に転換した。菌種の特徴から寒気到来時に爆発的発生をみた。

公社製造菌床ブロックの生産者販売高が 1 億円を突破、管内の主要農林産物として成長している。

品目	28 年度実績	27 年度実績
愛知県園芸振興基金協会受託むかご栽培	31,700 粒	127,300 粒
自然薯の一本種芋生産*20g～100g	3,638 本	5,590 本
菌床シイタケブロック製造	159,029 菌床	157,129 菌床

5. 都市農村交流促進事業

(1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休みの農業体験として定着しており、「道の駅手作り村」と連携し延べ300余名を受入れた。夏休み期間中のロングランの体験交流を試みたが、日によって収穫体験人数を制限する結果となり、定植時期と定植本数に課題を残した。

(2) 稲作体験（生協・経済連・手づくり村）

道の駅に隣接した新規圃場や既設圃場において、年間のイベント交流への作業支援等、延べ400名が体験した。

(3) つくで祭り

研修生が公社実習で栽培収穫したサツマ芋を活用したスティック、今年度試験栽培したポップコーンの加工調理販売を通じ消費者交流を行った。

(4) 「道の駅つくで手作り村」感謝祭

公社栽培の菌床椎茸、ポップコーンを販売PRした。

(5) JAまつり

JAまつりの人気コーナー『シイタケ詰放題』において、新規就農研修生の販促体験を兼ね、農林業公社しんしろの菌床椎茸をPRした。

(6) 作手小学校農業指導

「ふるさと先生」派遣講師依頼に基づき、小学生への稲作体験指導、自然薯栽培指導を行った。

6. その他農業振興事業

(1) 菌床栽培農家に対する栽培施設の貸付

全8棟 面積2,520 m² (8年予定の6年目更新契約を実施)

(2) 土壌改良剤散布支援

JAの水田土壌改良剤散布に対してオペレーターを派遣した。

7. 農林産物生産事業

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| (1) しいたけ栽培事業 | 34,530 菌床の栽培実証を行った。 |
| | 収穫量約 31,000kg (前年 28,100kg) |
| (2) 自然薯栽培事業 | 1,200 本のパイプ伏せ込み栽培を行った。 |
| | 収穫量 278kg (前年 270kg) |